

(仮称)南花台中央公園

コンセプト 整備方針

南花台の生い立ち

今から40年前、多くの子育て世代が、高台の丘に位置するこの南花台に、きれいな空気、大きな青空、心地よく吹き抜ける風、目に飛び込む壮大な自然、そして子どもたちが走り回る活気を求めて移り住んできました。

多くの子どもたちは、進学、就職、結婚を機にこの地を離れてしまいましたが、親世代は40年という歳月を重ねるなかで、このまちらしいコミュニティを育み、助け合いながらまちの活力を維持してきました。

南花台の未来

まち開き当時に入居した住民が求めた豊かな住環境は、今も変わらず南花台での生活の気持ちよさを支えています。

これからの南花台は、このような環境を一層大切にしながら、時代のニーズに応じた、誰もが主体的に使いこなせる新たな居場所をつくり、日常生活の楽しさや安心感を高め、例えば、次代を担う子どもたちが走り回り、それを地域 みんなが微笑ましく眺め支えている、そんな活気と幸福感のあるまちになっていきたい。

地域の住民を中心に地域にかかわる者みんなでまちをつくり、守り育て、魅力を増やしていける、そんな誰もが協働できるまちになっていきたい。

(仮称)南花台中央公園コンセプト

- 南花台に住み続けている世代だけでなく、あらたな子育て世代にとっても、暮らしたくなる、暮らし続けたいなる、まちの象徴となる公園づくり
- 南花台での暮らしの魅力をさらに強く感じ、生活の質やまちの価値を格段に高める、美しい公園づくり
- 計画から運営までの整備プロセスに、地域の誰もが関わることができ、一緒になって育てて行ける仕組みを持つ、愛着を持ち続けられる公園づくり

(仮称)南花台中央公園整備方針(1)

まちの象徴となる公園づくり

- 地域で子どもを育てる、子どもが育つ環境を支える公園。
- 憩い・遊び・地域活動(防災活動含む)・健康づくり・スポーツなどを通じ、日常的にコミュニティを育むことができる公園。
- 園児・児童・生徒・学生、社会人、高齢者等の世代を超えた利用が自然に生まれる公園。
- スタジアムエリアにおいても日常的利用が生まれる公園。
- あらたな交流や地域への経済循環を高めることにつながる来訪者がいる公園。
- 障がい者目線を取り入れた利用する人にやさしいインクルーシブな公園。
- ジェンダー視点を取り入れた誰もが気持ちよく訪れることができる公園。

(仮称)南花台中央公園整備方針(2)

美しい公園づくり

- 南花台の豊かな住環境の魅力をさらに心地よく感じることができる公園。
- 周辺住宅地及び歩行者動線と適度な連続感があり、不要な死角がなく、安心して利用できる公園。
- 都市的な目線での交通・歩行者動線のあり方が最大限考慮された公園。
- 南花台1号線により分断された2つのゾーンの一体感を創出する歩行空間・都市空間を持つ公園。
- まちの魅力や価値を高める景観財産となる美しい公園。

(仮称)南花台中央公園整備方針(3)

愛着を持ち続けられる公園づくり

- 地域の住民が整備プロセスに関わることを通じて愛着が生まれる公園。
- 完成後の公園マネジメントに住民が参画する仕組みを構築し、地域住民が関わり続け、守り育てていくことのできる公園。
- 「スペランツァ大阪」をわがまちのチームとして身近に感じ、地域が一体となって盛り上げる公園。
- スタジアムエリアにおいても日常的な利用が生まれる運営の仕組みを持つ公園。